

埼玉の魅力と課題の再発見

研究企画委員会 後藤 和子

昨年より、経済学部の研究の活性化のために、研究企画委員会が設置された。以前より、研究活動の活性化のためにスタッフセミナーを開催してきたが、それとは異なる切り口から活性化のための企画を考えるのが、当委員会のミッションである。

経済学部とはいっても、経済学科、経営学科、社会環境設計学科という3学科を擁し、多様な研究分野の研究者が混在するため、共同研究の企画を考えるのはなかなか難しいことである。また、すでに、若手はアジアのウェル・ビーイングに関する共同研究を実施している。

そこで、学部スタッフに共通する身近な話題で、学生会員のゼミ活動にも役立つテーマとして、「埼玉の魅力と課題の再発見」の特集を組んでみることにした。学部スタッフは、日頃から、埼玉県やさいたま市で様々な委員会の委員を務め、地域研究にも取り組んでいるからである。

近年、地域ブランド力のランキングが行われている。残念ながら、最下位を独占しているのは北関東の県である。ちなみに、2012年のランキングでは、埼玉県は43位であった。また、地域間産業生産性の格差に関する調査分析でも、埼玉県は決して高くなく、その要因である人的資本（の質）においても高くない。1970年と比較すると、製造業の産業生産性では地域間格差が縮小し、非製造業における格差が残存していることも分かっている。非製造業の集積は消費地立地であり、また、人的資本の集積は更なる集積を生むことも分析されている。

これらの動向は、日本の産業構造が知識社会へと移行していることを表している。魅力的な地域

に優秀な人材が集積し、人的資本（の質）が豊富な地域では非製造業が発展するため、産業生産性が高いと推測できる。つまり、地域ブランド力は、観光のみでなく、産業生産性にも影響を与えている可能性がある。

では、埼玉には本当に地域ブランド力の核となるものがないのか？ その答えを探るべく、鉄道博物館や企業美術館、見沼たんぼの魅力について掘り下げた。埼玉の大学に勤務しながら知らないことも多く、まさに、「埼玉の魅力の再発見」となる大変貴重な論考をお寄せくださった先生方に心より感謝を申し上げたい。また、人口一人当たりの税収額の指数でみると、埼玉県の地方財政収入は91.8である。個人住民税は108.9と大きい、地方法人2税は68.0である。この数字は、人口は多いが、その多くが東京に通勤し、埼玉県内の企業活動の産業生産性が低いこととも関係しているように思われる。

そのため、埼玉は、財政面では課題もあることが推測される。そこで、財政面の課題の1つとして、今後予測される社会資本の補修や維持管理需要に関して、「なぜ埼玉県内市町村の長寿命化修繕計画策定率は低いのか」を分析した意欲的な論考をお寄せいただいた。橋梁を事例として、埼玉県下の市町村の修繕計画率が低い要因について分析した興味深い論考である。この論考では県の果たすべき役割についても議論しており、政策提言につながる内容となっている。

この特集が、スタッフの研究の刺激となり、学生会員の皆さんにとっては、身近な話題としてゼミ等でも活用していただけると、大変嬉しく思う。